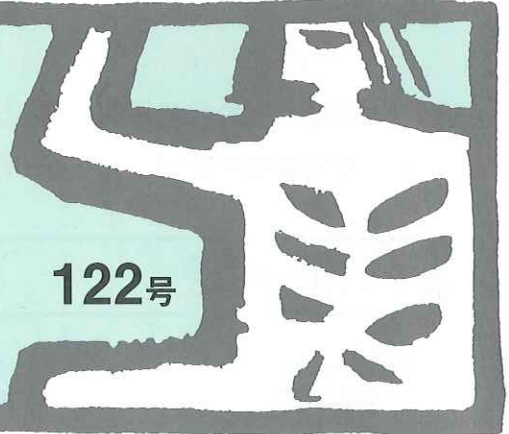


ピース・ウイング長崎 会報

へいわ

122号



■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961  
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

■平成20年度事業報告 ■財団設立25周年を迎えてのごあいさつ・記念事業開催報告  
■アジア青年平和交流事業・海外原爆展 ■核実験に対する理事長声明ほか ■TOPICS



平和推進協会の財団設立25周年を記念した式典や講演、シンポジウムを開催しました。

平成21年4月18日(土)原爆資料館ホールにて

# 昨年度はこのような事業を行いました！

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与し、平和への認識をさらに深めてもらうために  
昨年度は次の事業を実施しましたので、それぞれの事業に要した費用とともにご報告します。

## I 一般事業

### 1 発刊事業 1,774,635円

会報「へいわ」の発行 —————年 4 回発行  
情報 BOX の発行 —————月 1 回発行

### 2 啓発事業 2,604,752円

#### ピースネット

20年度 19件

遠隔地の小・中学校に対し、テレビ会議システムによる平和学習を実施しました。



#### 平和学習

20年度 1,192校 159,880人  
内訳 小学校 476校、中学校 414校  
高校 212校、一般 90件

被爆の実相を伝えるため、修学旅行生や市内の小・中学校の児童・生徒などに被爆体験講話を実施しました。20年度から追悼平和祈念館も講話の会場として使用しています。

#### 原爆被災写真パネル・ビデオの貸し出し

20年度 パネル19件 ビデオ135本

#### 出前講座

より多くの人たちに被爆の実相や被爆者の体験などを知ってもらうため、各地に出向いて講座を開催しました。

#### 設立記念講演会

アグネス・チャン氏講演会  
21年 2月 6日、長崎市民会館文化ホール

協会設立を記念して平和をテーマとした講演会を開催しました。

#### 国連軍縮週間行事

20年10月25日(土)開催

屋内行事(追悼平和祈念館交流ラウンジ)  
財団設立25周年記念イベント  
シンポジウム「アジア青年平和交流事業の歩みと成果」

屋外行事(原爆資料館前階段下広場)  
戦時食コーナー、折り鶴コーナー、原爆被災写真展、チャリティーコーナー、紙芝居、演奏と合唱など

国連の創立日を記念した「国連軍縮週間」にあわせて、協会では市民の平和意識を高め、平和問題への認識を深めるために「市民のつどい」と題して各種の催しを行いました。



#### 県外原爆展・県外被爆体験講話

20年度開催都市 11市町

福岡県北九州市、東京都府中市、大阪府八尾市、宮崎県日向市、兵庫県三田市、北海道札幌市、石川県金沢市、千葉県浦安市、神奈川県藤沢市、宮城県仙台市

原爆の問題について、触れる機会の少ない県外の方々に被爆者の体験講話や展示資料を通じて、被爆の実相や核兵器の恐ろしさを知ってもらうために、協会と長崎市、協会と県外の各都市との共催で開催しました。

### 3 調査研究事業 75,740円

平和関連団体である第五福竜丸平和協会設立35周年祝賀会及び東友会（東京都原爆被害者団体協議会）事務局へ職員を派遣し、核廃絶に向けて、情報収集などを行いました。

### 4 育成事業 6,331,905円

#### 部会活動

継承部会 被爆体験講話などを担当  
写真資料調査部会

被爆写真の分類整理を担当

#### 国際交流部会

外国人来訪者の通訳・案内などを担当

#### 音楽部会

行事の運営などを担当

市民の幅広い参加を求めながら、会員が市民とともに平和への意識を高めるために活動を行いました。

#### アジア青年平和交流事業

平成20年 8月21日～27日  
シンガポール・マレーシア訪問（5名）

長崎の青年がアジアの各国を訪問し、現地の大学で平和についてのプレゼンテーションや討論を行い、学生と交流を行いました。



#### 平和案内人派遣事業

派遣人数  
原爆資料館案内 1,829人  
碑巡り案内 937人

おもに観光客を対象とした碑めぐりや原爆資料館、追悼平和祈念館などの案内ガイドとして派遣しました。

#### 平和活動支援

「ながさき平和大会」  
「第46回原爆忌文芸大会」  
「第19回外国人による  
日本語弁論大会」

協会の活動趣旨と一致する活動に対して助成をしました。

#### 秋月グラント

アジアピースネットワーク  
「長崎・広島青年シンポジウム」

アジアピースネットワークの日本におけるネットワークの拡大を目指し、まずは広島の若者との連携を模索、実現していくためのシンポジウムに助成を行いました。

## II 受託事業

290,909,000円

長崎原爆資料館観覧料徴収業務  
及び受付案内業務  
長崎原爆資料館図書資料整理業務  
国立長崎原爆死没者  
追悼平和祈念館運営事業

長崎市や国からの委託を受けて上記の事業を行いました。

## III 収益事業

売上額 22,674,350円

原爆・平和に関する図書や平和意識啓発普及のための物品などの販売を原爆資料館の図書販売コーナーで行いました。



# 核兵器廃絶への思い新たに

財団設立25周年記念事業を開催

4月18日、長崎平和推進協会が財団法人設立から25周年を迎えたことを記念して、原爆資料館ホールにて記念行事を行いました。

およそ220名の方々が登場され、藤井副知事、田上長崎市長をはじめ、吉原長崎市議会議長、中田副議長、広島平和文化センターのステイブ・ブーン・リーパー理事長、当協会の初代会長の本島等氏、現在顧問で元理事長の長瀧重信氏にもご出席いただきました。官民一体となり、設立当時から「小異を残して大同に集まろう」との精神で「核兵器廃絶」「世界恒久平和」の実現へ向けてさまざまな活動を行ってきましたが、その活動を四半世紀続けてきたことになりました。

また、6月21日には、「被爆体験の継承をどうするか」をテーマとしたシンポジウムを行いました。



## ごあいさつ

財長崎平和推進協会

理事長 横瀬 昭幸

財団設立25周年の節目の年にあたり、協会を代表して一言ごあいさつ申し上げます。

長崎平和推進協会は、『それぞれの異なった考えは尊重して残しつつ、「核兵器廃絶」と「世界恒久平和」の実現に向けて、できることから取り組みましょう。』という考え方で、昭和58年2月に行政と民間が一体となった任意団体として発足いたしました。

その後、体制を強化することを目的に、昭和59年4月1日に財団法人として新たにスタートいたしました。

それから数えてこの4月1日でちょうど25年が経過し、四半世紀という節目を迎えたところです。これまでの間、このような活動を続けてきたということは会員をはじめ関係者の皆様の多大なるご協力のお陰です。

核兵器廃絶への道はまだまだ厳しいものがありますが、オバマ米大統領が「核兵器のない世界」への構想を示すなど、新たな光が見えるのではないかと期待されています。このような中、5月25日、北朝鮮による2回目の地下核実験が実施されたことは、私たちの訴えを踏みにじるもので、非常に残念でなりません。

私は、先の理事会におきまして、4期目の理事長を務めることとなりましたが、こういう時だからこそ、「核兵器と人類は共存できない」ことを粘り強く発信していかなければならないと、理事長として改めて確信しております。

どうか、みなさんも核兵器廃絶に向けて、できることから協会の活動にご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

## 記念式典

記念式典では、理事長によるあいさつの後、藤井副知事、田上長崎市長から来賓のあいさつをいただきました。その後、協会に温かな支援をいただいた方々に、感謝状の贈呈を行いました。対象となった13団体・個人のうち、4団体・個人が出席され、代表で岡田



郁代さん（継承部会員であった故・堂尾みねこさんの妹）からは、スピーチもいただきました。

さらに、初代理事長でもあり協会設立時からご尽力された故・秋月辰一郎さんの功績をたたえ、顕彰を行いました。この日は、すが子夫人には出席していただくことができませんでしたが、親交の深い平野伸人さんが代理で出席されました。



## 田上長崎市長記念講演

「被爆都市の市長としての核兵器廃絶への思い」というテーマで講演



をいただきました。講演の中で、核兵器をめぐる世界の動きにオバマ米大統領が「核兵器のない世界」への構想を示すなど、核兵器廃絶へ向け、新たな光が見えるのではないかと期待されているが、世界の動きが変わろうとする今こそ、被爆地長崎から核兵器廃絶に向けて強く訴えていかなければならず、また、世界では、宗教上の対立から戦争に発展することもあるが、長崎では異なる宗教者が一堂に会してごく普通に協議をしているといった長崎独特の力を大切にしていかなければならない、といったお話がありました。

## シンポジウム

「私の平和活動の原点」をテーマとして、4人のパネリスト【中

野華子さん（アジア青年平和交流事業参加者）、山崎翔矢さん（高校生一人署名活動者）、富永弘美さん（平和案内人）、西岡由香さん（漫画家、平和宣言文起草委員）と、コーディネーターに塚田恵子さん（NBCアナウンサー）を招いてシンポジウムを行いました。



被爆者でもなければ、長崎出身でもない方もいる4人の方々が、それぞれが平和活動を行うきっかけとなったエピソードなどを語り、その後、平和活動に関心のない人たちにいかに関心を持たせるかという問題や伝えていくことの難しさなど感じていることを語っていただきました。

パネリストから「原爆を体験していない者が、原爆のことを語る事ができるのか」といった疑問を抱いていたときに、「体験をしたら生きていないかもしれないのだから、体験をする必要はない。体験者でない者でも、原爆のこと

を語っていいんだ」とのある被爆者からの声を聞いて、自分が取り組んでいることに確信が持てた」との意見が出るなど、非常に参考となる発言がありました。

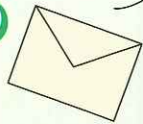
## レセプション

午後6時からは、会場を長崎新聞文化ホールアスタピアに移し、関係者によるレセプションを開催しました。

来賓として、国会議員、県議会議員、市議会議員のみなさまのほか、広島平和文化センターのステイブン・リーパー理事長、当協会の初代会長の本島等氏、現在顧問で元理事長の長瀧重信氏にもご出席いただきました。音楽部会のみなさんによる合唱や、列席者によるスピーチ、詩吟の披露、最後には本島元会長から、オバマ大統領への応援のことが飛び出すなど、貴重な情報交換の場となりました。



## 25周年以後の 協会活動の 強化を



25周年記念事業準備委員会  
奥村英二委員長の  
メッセージ



財団設立25周  
年を迎えました。  
当協会では25年

間被爆者の被爆体験を柱に、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて取り組んできました。しかし、被爆者の核兵器廃絶の願いとは逆に核兵器保有国が拡大しています。

設立以来の25年間の取り組みを総括し、設立当初の基本理念を新たな決意で実現させるため、記念事業を計画しました。記念事業に取り組む基本は、市民と連帯し、いかに多くの長崎市民が参加できる内容とするか、また、高齢化した被爆者の被爆体験を、次の世代にどう継承するかを柱にしました。

そのために、準備委員会を立ち上げ、委員会で充分検討し、すでに、25周年事業の式典、記念講演、2つのシンポジウムなどを、協会組織をあげて開催しました。引き続き、平和写真コンテスト、記念誌の発行などを実施します。

これらの事業を通して、被爆地長崎から「核兵器廃絶・世界恒久平和」の実現に向けた活動をさらに活発化させるため、25周年以後の当協会の活動に、会員のみならず、会員のみなさんが積極的に参加されるようお願いいたします。

6月21日には、コーディネーターに田崎昇さん（元長崎市平和推進室長）、パネリストに各地で被爆や戦争を語り継ぐ活動をされている山川剛さん（継承部会）、白鳥純子さん（平和案内人）、野口伸一さん（県被爆二世の会）、波平エリ子さん（壕プロジェクト）、西本守さん（広島平和文化センター評議員）を招いて、「被爆体験の継承をどうするか」をテーマにシンポジウムを開催し、「被爆体験を語るることができる方を掘り起こしてはどうか」という意見をはじめ、継承活動のあり方について会場を含めて活発な論議が交わされました。

### 被爆体験継承シンポジウム

## 平和写真コンテスト作品募集

財団設立25周年記念事業として、「私の平和！」をテーマに、原則として長崎市内を撮影した写真によるコンテストを開催します。

入賞作品は展示も行う予定です。

#### テーマ

「私の平和！」

#### 募集期間

2009年5月1日～2009年11月10日（必着）

#### 応募資格

プロ・アマチュア問わずどなたでも応募できます

#### 募集部門

一般の部（高校生以上）・子どもの部（中学生以下）

#### 入賞

長崎市長賞（1点）・長崎市議会議長賞（1点）・  
協会理事長賞（1点）・追悼平和祈念館長賞（1点）・  
原爆資料館長賞（1点）・佳作（5点）  
※部門ごとにそれぞれ選考、選定します

#### 入賞者発表

2010年1月（予定）

#### 応募方法

応募用紙に必要事項を記入し、写真の裏に貼付のうえ、事務局まで郵送して下さい。応募用紙は協会事務局をはじめ、市役所などで配布しているほか、協会ホームページからもダウンロードできます。

#### 問い合わせ先

（財）長崎平和推進協会  
25周年記念平和写真コンテスト係  
電話 095-844-9922



## アジア青年平和交流事業・海外原爆展 マレーシアのクアラルンプールで合同開催

協会設立20周年を迎えた平成15年に日本とアジア諸国の若者がお互いの国を訪問し、平和意識を高めることを目的に始まったアジア青年平和交流事業も今年で7回目を迎えることになりました。

今回は8月18日から25日までの日程でマレーシアの国立マラヤ大学を訪問する予定ですが、同時に追悼平和祈念館が主催する海外原爆展も開催し、アジア青年平和交流事業に参加する青年たちに原爆展の準備や開会式の運営などを体験してもらうよう企画しています。

海外原爆展は、被爆60周年を機に始まって以降、過去4回とも欧米の都市で開催したことから、これらの地域以外での開催を目指して候補地を探していたところ、これまでアジア青年平和交流事業で、交流を深めていたマラヤ大学東アジア研究科のナスルディン学科長の全面的な協力により同大学での開催が実現したもので、アジア青年平和交流事業と同じ「平和」をテーマとする事業であるため、開



催時期も合わせて8月20日から10月31日までの日程で開催することになりました。

開催地となるマラヤ大学は首都・クアラルンプールにあるマレーシアの最高学府で、多数の学生が在籍していることから、長崎と現地の若者同士の交流や意見交換を行うことでお互いのことを理解しつつ、彼らに被爆者自身が語る被爆体験講話や被災資料を通じて被爆の実相と平和の尊さを伝えることができるため、2つの事業の相乗効果が期待されます。

5月25日に北朝鮮が平成18年10月に続き、2回目の地下核実験を強行したとの報道を受け、ただちに理事長名で抗議の意を表し、その後、国連の北朝鮮代表部あてに抗議文を送りました。

2009. 5. 25

### 朝鮮民主主義人民共和国の2回目の核実験に対する 財団法人長崎平和推進協会理事長声明

(財)長崎平和推進協会  
理事長 横瀬 昭 幸

本日、北朝鮮が2回目の核実験を実施したとの報道に接しました。  
北朝鮮が2回目の核実験強行の行動に至ったことに対し、被爆地長崎で核兵器廃絶・世界恒久平和を目的に設立された「財団法人長崎平和推進協会」として強い憤りを感じざるを得ません。

今や、国際社会はオバマ米国大統領が核兵器のない世界実現へ前向きな発言をした「プラハ演説」をきっかけに核兵器廃絶の機運が高まりつつある今日において、北朝鮮による核実験は我が国のみならず、東アジア及び国際社会全体に脅威を与え、東アジア地域における平和と安全をなし崩しにしようとする行動であり、私共は絶対に容認することはできません。

世界で唯一、核兵器の脅威を経験した被爆者や長崎市民は大きな憤り感じると共に、北朝鮮の愚行によって引き起こされる危機感を深く憂慮しております。

ここに被爆地長崎の平和推進協会理事長として強い怒りを覚えるとともに核兵器の開発を即時に中止することを強く要求します。

4月にチエコのプラハで「核兵器のない世界」を目指した取り組みを表明したオバマ大統領に対し、協会と理念を同じくするもので、被爆地の市民として敬意を表すとのメッセージを在日米国大使館に送りました。

## 原爆死没者名簿風通し

5月26日、原爆死没者名簿の風通しが追悼平和祈念館で行われました。

普段は名簿棚の中に厳重に保管されている147冊の死没者名簿が交流ラウンジに敷き詰められた白い敷布の上に整然と並べられ、長崎市原爆被爆対策部の職員が午前11時2分に黙祷を捧げたあと、1ページずつ状態を確かめながら丁寧にめくると、5月のさわやかな風がページの間を吹きぬけました。



## ながさき平和大集会

ながさき平和大集会は、協会の初代理事長である故・秋月辰一郎さんと小池スイさんが中心となり、組織や信条に関係なく誰でも参加できる平和集会として始められ、6月14日に21回目の集会在原爆資料館ホールで開催されました。

集会では、10年にわたり千羽鶴を折り続けている五島市の藤原良子さんに秋月平和賞が贈られたほか、高校生平和大使が決意表明をしました。



## 健康講話、好評開催中!

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の協力で、「被爆者健康講話」が6月から始まりました。

昨年度は、動脈硬化や食生活、薬と食品の相互作用などの話題のほか、チェルノブイリ原発事故で幼くして被ばくし、長崎大学にて被ばく医療を学ぶベラルーシ共和国ゴメリ医科大学の学生との質疑応答など、長崎大学大学院がヒバクシャ医療の国際協力事業に取り組んでいる実態にも触れました。

今年度も被爆者の方々が抱える身体の不安を少しでも和らげるように専門の先生に予防医学や身近な食と健康の話などをしていただきます。

興味のあるテーマだけ聴講することもできますので、多くの方の出席をお待ちしています。

今後の  
講話

時間：15：00～16：00  
場所：追悼平和祈念館

- 第2回 7月16日(木) (関谷先生)  
「骨粗しょう症と転倒予防」
- 第3回 8月21日(金) (高村先生)  
「メタボリックシンドロームについて」
- 第4回 9月17日(木) (林田先生)  
「もうすぐ乳がん月間です。  
あなたの大切な人を守るために」
- 第5回 10月15日(木) (平良先生)  
「薬と上手に付き合うために」

## 会員数報告

- ◎維持会員 1,287名
- ◎賛助会員 177名
- ◎臨時会員 9名
- ◎学生会員 11名

平成21年6月26日現在

## 寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎白鳥 純子 一万円
- ◎江崎 瞳 五万円
- ◎匿名 六千円
- ◎岡田 郁代 二十万円
- ◎山脇 佳朗 十万円
- ◎尾畑 正勝 三万円
- ◎加古川市立山手中学校 四万五千五百六十六円  
(敬称略)

## ご報告

5月25日、29日に開催した評議員会、理事会にて、事務局から平成20年度の事業実施状況及び決算について説明を行い、原案のとおり承認されました。

本紙は再生紙を使用しています。

印刷 株式会社 昭和堂  
平成二十一年六月三十日発行